

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：看護学科

資格：助教

氏名： 桧山 美恵子

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	高齢者の閉じこもり
学位	最終学歴
博士（看護学）	武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 看護師免許取得	1989年5月29日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 閉じこもり高齢者の身体・心理・社会的特性をふまえた看護支援の検討—社会的な活動に参加している高齢者の語りとの比較から—	単	2023年2月	武庫川女子大学大学院看護学研究科博士後期課程	閉じこもり高齢者と社会的社会的な活動に参加している高齢者の身体・心理・社会的な特性を明らかにし、両者の比較から閉じこもり高齢者の要介護状態への移行を予防する効果的な看護支援の方法を検討することを目的として研究を行った。両者にインタビュー調査を行い、SCAT (Steps for Coding and Theorization) の手法を用いた質的記述的に分析した。その結果、①身体的な障害がある場合は、自助具や歩行補助具の利用を促す等、外出が可能となるように支援する②自己肯定感を高められるよう対象者を認め、話を聞き取り不安と感じている内容を明らかにし、不安を解消してうつ状態にならないよう支援する③訪問時に閉じこもっている生活を語る機会を作り傾聴する④閉じこもり高齢者に対し閉じこもりの改善に至った事例を紹介する等、具体的な目標や方法がわかるよう支援する⑤訪問時にロールモデルとなり得る人物と同行し、閉じこもり高齢者と対話する機会を作る⑥地域包括支援センターの職員が社会との関係性を保つ重要な他者の役割を果たし、他者との交流を広げていくという6つの具体策が示唆された。
2. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への介入内容	単	2018年2月	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程	地域包括支援センターの看護師が行っている、閉じこもり高齢者をサービスにつなげるための介入内容を明らかにすることを目的とした。地域包括支援センターの看護師9名にインタビューを行い、質的記述的に分析を行った。閉じこもり高齢者をサービスにつなげるために、対象者・家族・地域に介入した内容と特徴が明らかになった。地域包括支援センターの看護師が、閉じこもり高齢者をサービスにつなげるためには、対象者、家族、地域に対し、それぞれの介入の特徴をふまえ、対象者に対する直接的な介入だけでなく、対象者を取り巻く家族や地域住民、関係機関の専門職にも介入することが必要であった。また、対象者と家族や地域をつなぐために、看護師が調整する役割を担っていた。さらに、対象者、家族、地域に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
				対し、看護師としての知識や経験を活用することが効果的であることが示唆された
3 学術論文				
1. 閉じこもり傾向にある高齢者の身体・心理・社会的側面からの看護支援の検討—SCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いた語りの分析を通して— (査読付き)	共	2023年4月	日本健康医学会雑誌 第32巻 第1号 60-71	閉じこもり傾向にある高齢者の身体・心理・社会的側面の特性を明らかにし、看護支援を検討することを目的として、閉じこもり傾向にある高齢者2名に半構造化面接を行い、SCATの手法を用いて質的記述的に分析した。その結果、閉じこもるきっかけ、閉じこもりでの生活の実態、閉じこもりの影響などのストーリーライン、理論記述を導き出した。これらの内容から閉じこもりによって身体的な衰えの自覚や体調不調、認知機能低下の自覚、抑うつ状態が出現することや、他者との対面での直接的な交流が図れていなかったことが明らかとなった。さらに、閉じこもるきっかけとして生活に対する不安や新型コロナウイルス感染症に罹患する不安があり、不安による防衛機制から他者との接触がない閉じこもりという行動に至ったと考察した。また、数回にわたるインタビューにより閉じこもり解消に向けた行動変容が認められたため、閉じこもりでの生活を自らの言葉で語ることは行動変容につながる可能性が示唆された。これらをもとめ看護支援として、①身体・心理・社会的な機能の低下を防ぐために、閉じこもりが解消できるように介入すること、②閉じこもっている生活を自らの言葉で語る機会を作り、自己の現状を振り返り将来像をイメージできるように介入すること、③早期に個々が持つ不安の内容を明らかにし、身体機能が維持できるように介入することが効果的であると考えた。 共著者：松山美恵子、徳重あつ子、岩崎幸恵
2. 高齢者の閉じこもりの概念分析 (査読付き)	共	2022年7月	日本健康医学会雑誌 第31巻 第2号 170-180	高齢者の閉じこもりの定義と特徴を明らかにし、閉じこもり改善に向けた介入方法を検討することを目的として、「高齢者の閉じこもり」を主題とした31の日本語文献を対象にRodgers の概念分析を行い、属性、先行要件、帰結を明らかにした。属性は4つのカテゴリー、先行要件は6つのカテゴリー、帰結は4つのカテゴリーによって構成されていると判断した。属性の4つのカテゴリーにもとづき、高齢者の閉じこもりを「加齢変化の影響を受けて移動能力が低下し外出できないこと、あるいは、移動能力はあるが本人の意思で外出しないことにより、生活活動範囲が自宅に限定され、外出頻度が週1回未満の状態」と定義した。閉じこもり改善に向けた介入として、移動能力や外出意欲を向上させ、生活活動範囲を広げ週1回以上は外出することが重要であることが示唆された。閉じこもりによって生命の危機的状態を回避するためには、医療の知識のある看護職は積極的に見守りを行いながら、身体・精神機能の低下を見極め、タイミングを逃さないように介入することが重要であると考えた。また、閉じこもりが及ぼす影響を伝え行動変容を促す介入も重要であると考えた。 共著者：松山美恵子、徳重あつ子、岩崎幸恵
3. 本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態と健康行動 (査読付き)	共	2021年3月20日	武庫川女子大学看護学ジャーナル Vol.6	本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の基本属性や参加状況別にみた健康状態および健康行動を明らかにするため、2019年7月と8月の参加者を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。基本属性、「まちの保健室」参加状況と、健康状態や健康行動の関係について、Pearson の χ^2 検定または Fisher の正確確率検定を用いて分析を行った。参加者の健康状態や健康行動は参加回数や目的等により異なり、健康指標の測定を目的に参加した人は健康のために気をつけていることがある割合やがん検診の受診率が低いこと等が明らかとなった。「まちの保健室」は住民の生活の場である地域で実施しており、自ら相談の場や医療機関、健診や検診にアクセスできない人にもアプローチできる場となっている。より多くの人が関心を持てるよう健康指標の測定等を行い、その後の健康相談により自身の健康に目を向けられる機会とする必要性が示唆された。松井 菜摘、阪上由美、新田紀枝、田野晴子、松山美恵子、和泉京子、實田穂、徳重あつ子、宮嶋正子、久山かおる、早川りか、谷澤陽子、阿曾洋子
4. 地域包括支援セン	共	2020年4月	第50回日本看護学	地域包括支援センター看護師が閉じこもり高齢者の家族に対し、ど

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ターの看護師による閉じこもり高齢者の家族に対する介入内容(査読付)		14日	会論文集 在宅看護、51-54	のような介入をおこなったかを明らかにすることを目的とし、インタビュー内容を質的記述的に分析した。その結果、地域包括支援センターの看護師は、①家族の協力を引き出し、②家族が疾患に関する理解を深め、③家族の介護負担を軽減する関わりを行っていることが明らかとなった。 共著者：松山美恵子、横島啓子、徳重あつ子、杉浦圭子、岩崎幸恵
5. 看護学生が学びを得て看護師国家試験に役立つと認識した実習の体験(査読付)	共	2019年4月	日本医学看護学教育学会誌、第28号・No.1、37-44	看護学生が臨地実習で学びを得て看護師国家試験に役立つと認識した体験を明らかにすることを目的とした。4年制大学看護学部看護学科の卒業見込みがある4年次生で、在宅看護学領域の統合実習を履修した男性1名、女性6名に半構造化インタビューを行い質的帰納的に分析した。看護学生が国家試験に役立つと認識した実習の体験は【実際の対象者が利用する制度や施設の根拠法令を理解する体験】【地域包括ケアに関する具体的な援助について実際を通して理解しイメージ化する学習】【深く知ることにより理解したことが国家試験の勉強につながった体験】の3つのカテゴリが抽出された。実習のあらゆることを丁寧に結び付けて深く理解することができるように指導することで、実習の学びが臨床につながると考えられた。学生が国家試験に対応できる深い学びを得るためには、個別の事例を通して根拠法令、制度、疾患、看護、社会資源の利用と実際を丁寧に結び付けてイメージ化し、実感を得ることを意識した指導をする必要がある。 共著者：藤田俱子、瀬川睦子、松山美恵子
6. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への介入内容(査読付)	共	2019年2月5日	第49回日本看護学会論文集 在宅看護、19-22	閉じこもり高齢者が何らかの支援の利用に至ったプロセスを明らかにするために、地域包括支援センター看護師がどのような介入をおこなったか検討することを目的とし、インタビュー内容を質的記述的に分析した。その結果、地域包括支援センターの看護師は、①定期的に継続して訪問し、対象者のニーズをつかみ信頼関係を形成し、②看護師としての知識や技術を活用しながら、心身の状態から必要なサービスを提案し、継続した関係性への支援をおこなうことで、閉じこもり高齢者がサービスを含めた支援を受けることができるように介入していたことが明らかとなった。 共著者：松山美恵子、横島啓子、徳重あつ子
7. 気管支喘息発作時の排痰におけるスクイーミング効果の検討	共	2008年11月	日本小児アレルギー学会誌 第22巻第3号363-368, 2008	気管支喘息発作時におけるスクイーミングの効果ピークフロー値とSpO2 値、痰を喀出できた児の割合から検証を行った。その結果、スクイーミングは気管支喘息発作軽減の援助として効果があることが示唆された。 共著者：田中謙好、中村直美、米谷美恵子、村上照代、堀江淳、亀田誠、土井悟
8. 前立腺全摘除術汎用パス導入とその評価一	共	2003年10月	日本クリニカルパス学会誌 第5巻第2号420	前立腺全摘除術のパスを作成・使用し、発生したバリエーションを調査した。バリエーションの内容から、前立腺全摘除術汎用パスの評価を行った。 共著者：山本陽子、米谷美恵子、伊藤貴子、弥武美紀子、緒方規子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 社会的活動に自ら参加している高齢者の身体・心理・社会的な特性—シルバー人材センターで活動している高齢者の語りから—	共	2023年8月20日	日本看護研究学会第49回学術集会	シルバー人材センターで活動している高齢者の語りから、社会的活動に自ら参加している高齢者の身体・心理・社会的な特性を明らかにすることを目的とし、SCATの手法を用いて質的記述的に分析した。その結果、身体、心理、社会的な特性が明らかとなった。共同発表者：松山美恵子、徳重あつ子
2. 小児救急電話相談（#8000）の実践とコミュニケーション	共	2021年3月20日	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会	小児救急電話相談（#8000）の実践に関連する要因を明らかにすることを目的に、#8000事業に属する看護師211名を対象に、質問紙調査を実施した。その結果、電話相談の実践は、コミュニケーションス

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
スキル、自己効力感との関連			(奈良)	キルと地域医療情報提供に関連し、電話相談の向上には、これらを中心とする実践の促進が必要と示唆された。共同発表者：林文子、木村静、宮下佳代子、 <u>桧山美恵子</u>
3. 閉じこもり高齢者を介護サービスにつなげるための支援—地域包括支援センターの看護師による地域への介入	共	2021年3月20日	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会 (奈良)	地域包括支援センターの看護師が、閉じこもり高齢者に対して介護サービスを含めた支援につなげるために、地域に介入した内容を明らかにすることを目的とし、半構造化面接を実施し得られたデータを質的記述的に分析した。その結果、看護師は情報が共有できる地域作りを行い、状況に応じた関係機関の専門職に働きかけ、閉じこもり高齢者が住み慣れた地域で生活できるように介入していたことが明らかとなった。共同発表者： <u>桧山美恵子</u> 、徳重あつ子、横島啓子
4. 大学看護学部「まちの保健室」の利用状況および評価	共	2020年11月	第51回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会	「まちの保健室」の利用状況および評価を明らかにすることを目的とし、2019年7月～8月に実施した「まちの保健室」の参加者218名を対象に無記名自記式質問票を配布し各項目について記述統計量を求めた。健康指標の測定を目的に参加する人が8割、健康状態を知ることができた者や健康づくりに活かせる内容だったと感じた者が9割を超えており、参加者が自身の健康に目を向ける機会となることが考えられる。「まちの保健室」への参加により、地域住民の健康意識が維持および向上する可能性が示唆された。松井菜摘、阪上由美、新田紀枝、田野晴子、 <u>桧山美恵子</u> 、和泉京子、實田穂、徳重あつ子、宮嶋正子、久山かおる、早川りか、谷澤陽子、阿曾洋子
5. 小児救急電話相談（#8000）における電話相談員の職務満足を構成する概念の検討	共	2020年11月	第67回小児保健協会学術集会	小児救急電話相談（#8000）に携わる相談員の職務満足を構成する概念を明らかにし、質の高い仕事が発揮される職務環境の在り方および向上への示唆を得ることを目的とし、アンケート用紙を用いて自由記述による回答を質的記述的に分析した。結果、相談員の職務満足の概念は、仕事に対するやりがいや誇り、使命感などからなる〈仕事に対する肯定的感情〉〈仕事の成果の確認〉〈#8000の在り方・存在意義〉と、専門性の発揮や良い相談を行うことに関する〈相談員としての自律〉〈充実して仕事ができる環境〉の5つのカテゴリーが抽出され、相談員が力を発揮し質の高い相談を行うためには、職務満足の検討が有用であることが示唆された。共同発表者：林文子、内海みよ子、 <u>桧山美恵子</u> 、宮下佳代子、木村静
6. Social and psychological factors associated to preference of solitude for older adults living alone in Japan	共	2020年9月	International Nursing Conference	We aimed to investigate social and psychological factors associated preference of solitude which relate to social isolation and loneliness for older adults living alone. The subjects were 294 older adults (over 65 years) in living alone in largish housing complex. The high total score of preference of solitude was shown in male, younger ages and appearance social isolation (not go outside for once or more a week). The people responded that prefer to think alone rather than enjoy talking with others showed lower IADL score, high loneliness and none of support of caregiving, domestic duties, consultation about health and financial matters. Keiko Sugiura Keiko Yokojima Atuko Tokusige <u>Mieko Hiyama</u> Yukie Iwasaki
7. 回想を引き出すための認知症高齢者との会話の検討	共	2020年9月	日本看護研究学会第46回学術集会	回想法を用いた認知症高齢者との会話の実態から、看護ケアとして認知症高齢者の回想を引き出す会話の方法についての示唆を得ることを目的として行った。介護老人福祉施設入居者4名を対象として個人回想法を行った。その結果回想を引き出すための会話としての「個人回想法」の有効性が示された。また、対象者の背景を知らなくても回想を引き出すことができたことから、ツールの利用は効果的であると考えられる。共同発表者：徳重あつ子、横島啓子、杉浦圭子、岩崎幸恵、 <u>桧山美恵子</u>
8. 地域包括支援センターの看護師による	共	2019年9月14日	第50回日本看護学会在宅看護学術集	閉じこもり高齢者の家族に対して地域包括支援センターの看護師が介入した内容を明らかにすることを目的とし、A市の地域包括支援セ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
閉じこもり高齢者の家族に対する介入内容			会	ンターの看護師9名に対しインタビューを行い、得られたデータから逐語録を作成し、質的記述的に分析した。その結果、地域包括支援センターの看護師は閉じこもり高齢者の家族に対し、月1回の訪問を平均1年間かけて、関係性を深めながら継続的に働きかけを行っていた。その中で、家族間の協力を促すために、家族に役割を依頼するなどの【家族が協力できるようなかわり】、認知症の対応方法を繰り返し伝えるなどの【家族が疾患に対する理解を深めるかわり】、介護から離れる時間を作るなど【家族の介護負担を軽減するかわり】の3つの大きな介入内容が明らかとなった。 共同発表者： 桧山美恵子、横島啓子、徳重あつ子、杉浦圭子、岩崎幸恵
9. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への介入内容	共	2018年7月	第49回日本看護学会在宅看護学術集会	修士論文で、地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への支援を明らかにすることを目的とした調査において、閉じこもり高齢者をサービスにつなげるために、高齢者に介入した内容と特徴が明らかとなった。 共同発表者： 桧山美恵子、横島啓子、徳重あつ子
10. 実習体験に基づいた国試対策ともなる実習指導のあり方	共	2018年3月	第28回日本医学看護教育学会学術学会	看護学生が国家試験に役立ったと認識した実習での体験を明らかにすることで、国家試験対策を意識した実習指導を検討することを目的とした。実際に出会った療養者の状況や実習施設の概要から、制度や根拠法令に基づき理解して学んだ体験や援助や疾患について、学んだ体験が役立ったと感じており、個別の事例を通して医療的ケアなどの援助の実際のほか、根拠法令、制度、疾患を丁寧につなげて理解することが看護師国家試験に役立つことが示唆された。 共同発表者： 藤田俱子、瀬川睦子、高橋篤信、岩下幸祐、桧山美恵子
11. 気管支喘息発作時の排痰におけるスクイーミング効果の検討	共	2008年5月	第5回日本小児アレルギー学会	気管支喘息発作時におけるスクイーミングの効果ピークフロー値とSpO2 値、痰を喀出できた児の割合から検証を行った。その結果、スクイーミングは気管支喘息発作軽減の援助として効果があることが示唆された。 共同発表者： 田中謙好、中村直美、米谷美恵子、村上照代、堀江淳、亀田誠、土井悟
12. 前立腺全摘除術汎用パス導入とその評価	共	2003年11月	第4回日本クリニカルパス学会	前立腺全摘除術のパスを作成・使用し、発生したバリエーションを調査した。バリエーションの内容から、前立腺全摘除術汎用パスの評価を行った。 共同発表者： 山本陽子、米谷美恵子、伊藤貴子、弥武美紀子、緒方規子
13. 腎移植後患者のストレス緩和への援助	共	2001年1月	第34回日本腎移植臨床研究会	腎移植後クリーンルームで不眠を訴える患者が多く、不眠の改善のためアロマテラピーを取り入れた。アンケート調査の結果、バルーンカテーテル抜去後の頻尿で最も不眠になっていることが分かった。そして、その時期にアロマテラピーを使用することが、最も効果的であり、睡眠補助の一手段として活用できることが明らかとなった。 共同発表者： 川崎尚子、豊田恭子、米谷美恵子、正成マツ子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2021年2月～現在	日本健康医学会			
2. 2019年4月～現在	「まちの保健室」事業プロジェクトメンバー			
3. 2017年10月～現在	日本看護研究学会			
4. 2017年～現在	日本医学看護学教育学会			
5. 2011年12月～現在	大阪府小児救急電話相談員			